様式 3(20140401)

研究課題名	がん診療均てん化のための臨床情報データベース構築と活用に関する研究
研究責任者	太田　学
研究機関名	浜松医科大学附属病院腫瘍センター
研究目的と意義	平成 19 年4 月よりがん対策基本法が施行され、がん医療の均てん化の促進が唱われているものの、診療の実態や均てん化の進捗状況を具体的に把握するためのシステムは未確立である。国立がん研究センターでは先行する研究に於いて診療録からデータを収集してがん診療の質の指標（QI）となるような標準診療実施率を算定する研究を行ってきたが、均てん化を推進するために広い範囲での診療実態の把握や評価が必要であり、採録負担が大きいままでは普及に限界があることがわかってきた。そこで、電子データの限界は認識しつつ、院内がん登録とDPC(Diagnosis-Procedure Combination) を利用して、一定のQI に照らした診療実態を同定しつつ、そこから標準非実施例についての理由を検討するなど、効率的にデータを算出してそれを元に診療の検討を行う仕組みが必要と考えられた。その目的で、がん診療連携拠点病院から参加施設を募集して、データの提供を受けてQI 標準実施率を算定しフィードバックする体制を確立することを計画した。 また、QI 以外についても、院内がん登録とDPC データを突合させたデータベースは、がん対策の進捗を管理するための貴重な情報源として応用可能性があると考えられる。二次的にその可能性を検討することも本研究の重要な目的である。 また、応用可能性の検討の一環として、個人の秘匿性確保の検討を行う。将来のデータの広い範囲での安全な研究目的利用の可能性を探るためは、そのリスクと研究利用の期待される効果のバランスを取ることが必須である。そこで、構築されたデータベースの匿名化手法と秘匿性評価の検討を行う。このように、本研究ではデータベースの構築から、その幅広い活用方法について検討する。
研究期間	西暦　2014 年　9 月（倫理委員会承認後）　～　2016 年　3 月
研究方法	●対象となる患者さん： 院内がん登録で自施設治療例となっている者 ●研究に使用する試料： DPC データ（E，F ファイル）2011 年 1 月～2017 年 12 月まで

様式 3(20140401)

	●研究方法 標準実施率QI算定（①）については、院内がん登録及びDPCリンケージデータから可能な項目についての標準診療実施率を算定する。算定するQIは、標準診療実施率の分母は対象患者を記述、分子はそれらの患者に対する標準を記述している。もちろん、これらのQIは発展途上であり、本研究ではQIの妥当性を検証することも必要であることから、これらの結果を各施設にフィードバックし、そこから標準非実施症例については理由の情報を収集する。理由についてもその頻度などを分類して記述する。 臓器がん登録との連携可能性については、集められたデータを元に、協力の得られる臓器がん登録の項目の比較や、臓器がん登録への参加している施設と同じ施設の当データベースへのデータ提供が得られた場合には、施設ごとの症例数や治療数の比較などを行うことで、今後の連携の効果などを推定する。 データベースの活用方法の検討については、個人の秘匿強度を客観化するために、実際のデータから、コードのグループ分けを変化させてユニークな症例の頻度を計算、統計モデルを使った評価などを行う予定である。
問い合わせ先	〒431-3125 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院 診療科：医事課　診療情報管理係 担当者：金子　龍一郎 TEL：053-435-2546　　FAX：053-435-2153 E-mail：r-kaneko@hama-med.ac.jp

医学系研究に関する情報公開文書